

<アイデアのねらい>

造形的な資質・能力を活用・発揮しながら，自由にはさみを動かしてできた不定型な形の画用紙を並べたり，組み合わせたりすることで，形や色などの感じを捉え，自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす力を育成する。

<授業の展開例>

○はさみを自由に動かして白画用紙を切る。



○切った白画用紙を並べたり，組み合わせたりすることを楽しむ。



○次第にその形や色などに意味付けをし，いろいろなものをつくることに気付く。



○つくりだした形や色などから，新たに思い付いて意図的に並べ替えたり意味付けたりしてつくる。



○作品に題名をつけ，友達と見合う。



自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす力を育成

<講座の様子>

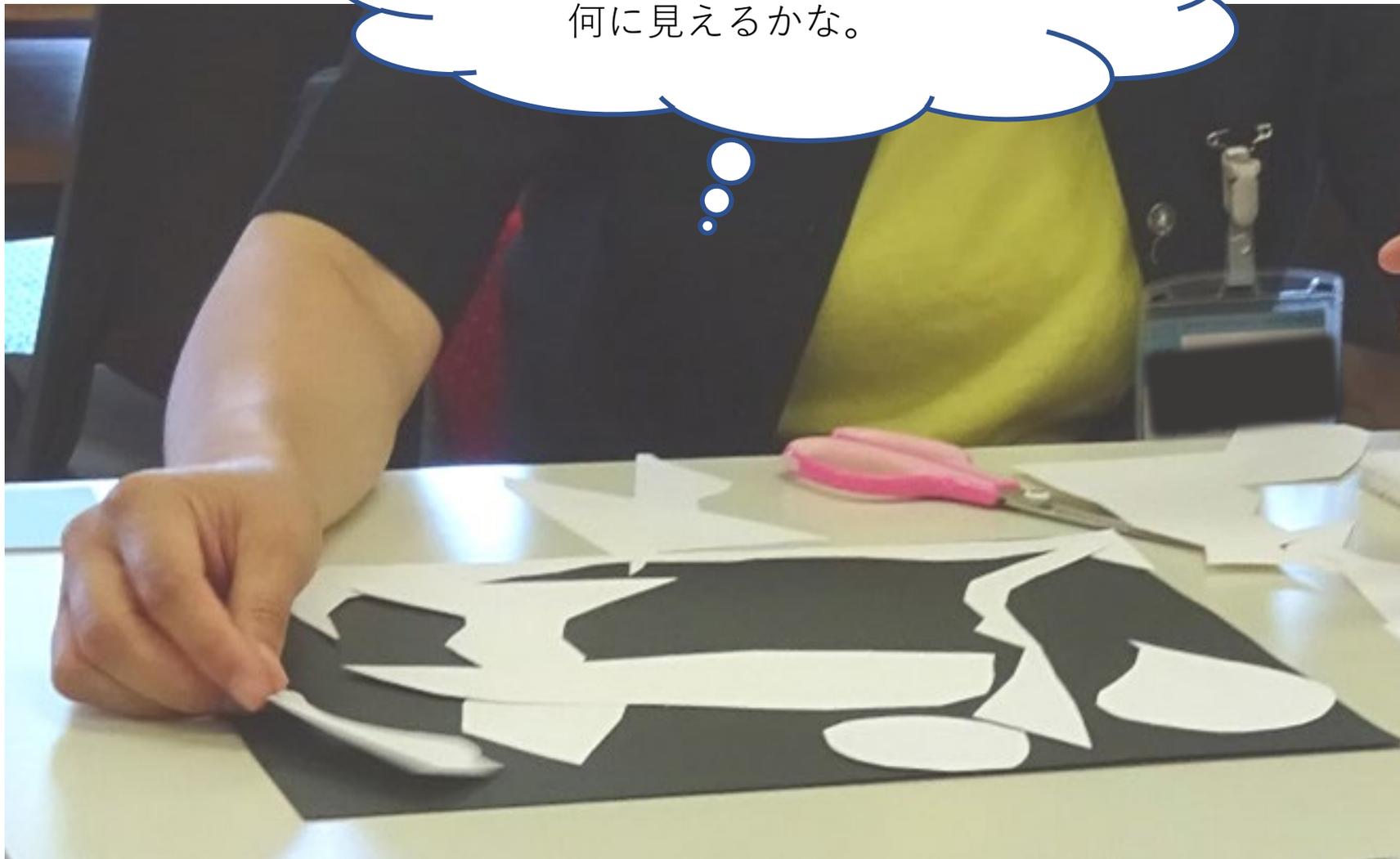
サクサク
サクサク。

切るときの音
や手の感覚も
気持ちいい。

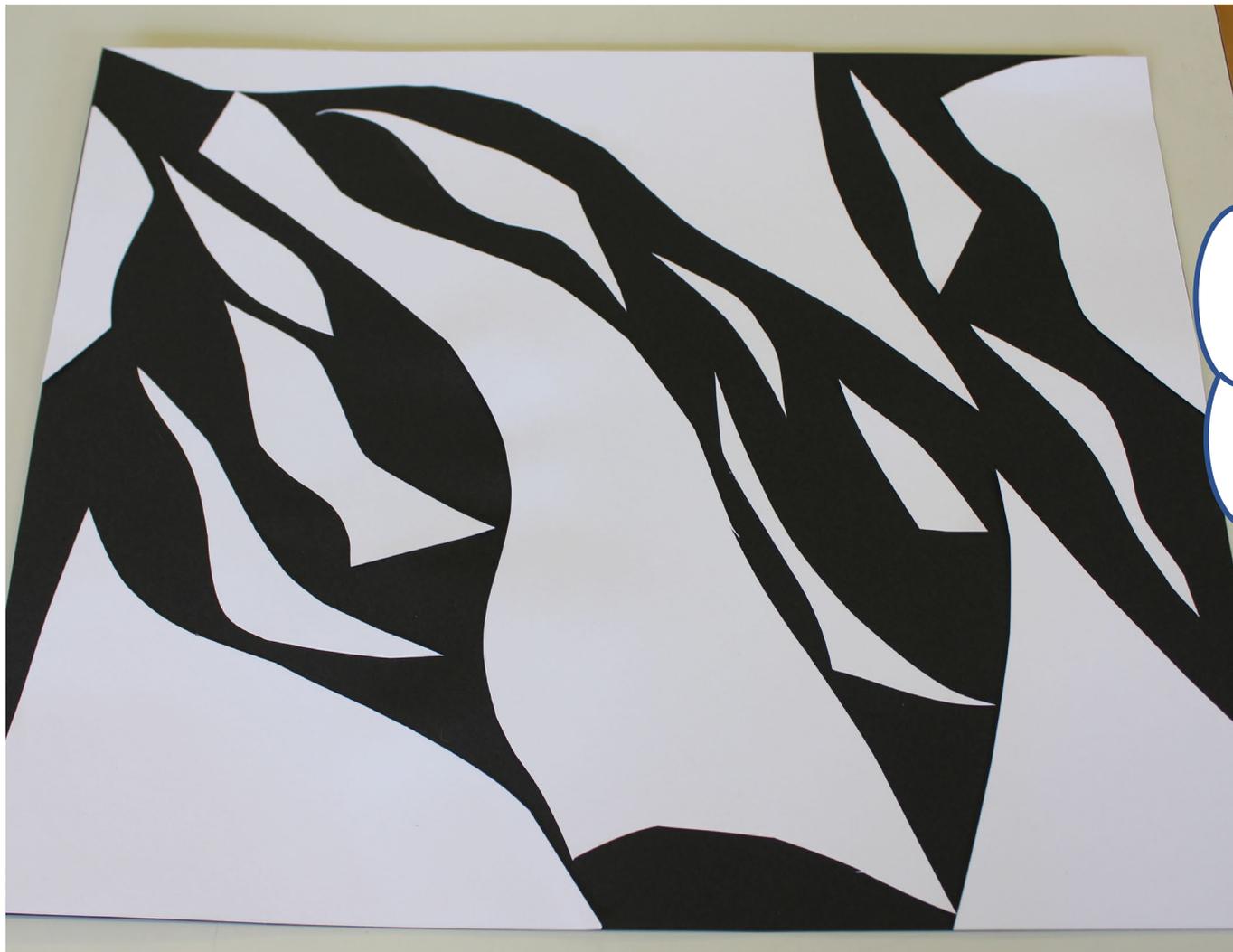


<講座の様子>

切った形を並べてみよう。
何に見えるかな。



<講座の様子>



白い部分が同じ
向きに動いている
感じがする。

題名は
「川の流れ」
にしよう。

＜留意点＞

導入では、表したいことのイメージを先に決めず、自由にはさみを動かして白画用紙を切ることを確認しましょう。

発想や構想の場面では不定型な形の感じやそれらの組合せの感じ、黒画用紙に並べたときの余白などから表したいことを次々と思い浮かべ、表現の思いが膨らんでいくことを大切にしましょう。そして教師が「何に見えるかな？」「それはどこからかな？」などと声を掛け、造形的な視点に気付いていくようにしましょう。

終末では作品に題名をつけ、形の感じやそれらの組合せの感じなど、捉えたことを友達と確かめたり、言葉で伝え合ったりする場を設定しましょう。



<受講者の感想>

- 白黒など，ある程度のしぼりがあると，逆にイメージを広げやすいと思った。
- 偶然できた形や色から発想を膨らませる題材はいろいろ工夫できそうです。



本題材は中学年を想定し「はさみで切る活動」を取り入れています。低学年なら「手で裂く活動」，高学年なら「モダンテクニック」など，発達の段階に合わせて活動内容を考えていきましょう。